

令和6年度 学校についてのアンケート集計（保護者・東洋学園）

※ 無回答は集計結果には含みません。

評価項目	回答者 所属	評 価					3・4の割合
		4	3	2	1		
		思う	だいたい そう思う	あまり 思わない	思わない		
1 お子さんは学校へ行くことを楽しみにしていますか。	小学部	6	1	0	0	100%	
	中学部	2	1	1	0	75%	
	高等部	5	1	0	0	100%	
	東洋学園	6	3	0	0	100%	
【結果より】 ・3、4の評価理由については、「教員との関係」と「友達との関係」で7割を超え、良好な人間関係が築けていることがわかる。 ・2の評価理由については「家で自由に過ごすことが好き」との回答。学校で過ごすことも好きになってもらえるよう、より多様な学びへの対応を工夫していく。							
2 学校は保護者と連携を図ることができていると思いますか。	小学部	6	1	0	0	100%	
	中学部	4	0	0	0	100%	
	高等部	4	1	0	0	100%	
	東洋学園	3	6	0	0	100%	
【結果より】 ・評価理由については、4割が「個別懇談」、3割が「連絡帳」と「学校行事」の順で回答理由を挙げており、保護者との連携では、日々の細やかな連絡や機会を捉えての密な連携が大切であることが再認識できる。							
3 学校はお子さんに合った授業をしていると思いますか。	小学部	6	1	0	0	100%	
	中学部	4	0	0	0	100%	
	高等部	4	2	0	0	100%	
	東洋学園	5	4	0	0	100%	
【結果より】 ・評価理由は、保護者、学園ともに「あゆみ、学習のお知らせから」という回答が約5割を超え、次に「授業参観」が約4割という結果であった。このことから「あゆみ、学習のお知らせ」が保護者や学園にとって日々の授業の内容を分かりやすく伝えているツールだといえる。							
4 学校は進路実現に向けた取組をしていると思いますか。	小学部	5	2	0	0	100%	
	中学部	3	1	0	0	100%	
	高等部	5	1	0	0	100%	
	東洋学園	5	4	0	0	100%	
【結果より】 ・3、4の評価理由については、6割近くが「体験的な学習（学部行事、職場体験、現場実習等）」である。体験的な学習の機会が重要な役割を果たしていることがわかる。							
5 学校は地域を支援するために保健・福祉等の関係機関と連携していると思いますか。	小学部	5	1	1	0	86%	
	中学部	3	1	0	0	100%	
	高等部	3	2	1	0	83%	
	東洋学園	3	4	2	0	78%	
【結果より】 ・2の評価理由について「具体的な例が思い浮かばない。」という回答があり、教育支援部の取組について見えにくいことを如実に表した結果となった。しかし、例年同様の傾向が見られることから意識的な周知等により、年々改善傾向が見られる。今後も地道な広報活動を継続していく。							
6 学校は安全で安心な場所だと思いますか。	小学部	5	1	0	0	100%	
	中学部	3	1	0	0	100%	
	高等部	5	0	0	0	100%	
	東洋学園	3	4	0	0	100%	
【結果より】 ・保護者、学園ともに評価理由として「学校・教室の環境」と「教員の指導体制」を合わせて7割から8割近く挙げられている。							
7 学校生活を通して、お子さんの健康や体力向上が図られていると思いますか。	小学部	6	1	0	0	100%	
	中学部	2	2	0	0	100%	
	高等部	5	1	0	0	100%	
	東洋学園	4	5	0	0	100%	
【結果より】 ・保護者、学園とも評価は高く、中高で取り組んでいる「トミトレ」を理由に挙げる回答もあった。引き続き体育、保健体育の指導だけでなく、教育活動全体を通して取り組んでいく。							

令和6年度 学校についてのアンケート集計（教職員）

評価項目		評価					
		4	3	2	1		
I	『多様な学び』 一人一人の応じた学び方、生きて働く力の基礎となる確かな学びの実践	思う	だいたい そう思う	あまり 思わない	思わない	3・4の割合	
1	学校は、児童生徒が障がいによる困難を主体的に克服することをねらいとして自立活動の指導の充実を図っている。	小学部	8	12	0	0	100%
		中学部	5	5	0	0	100%
		高等部	11	5	0	0	100%
		事務	3	1	0	0	100%
【結果から】 ・高い評価を得ていることから自立活動の指導が有効に機能していることがわかる。次年度も各学部の教育課程において当該年度努力または改善する事項として自立活動の内容を据えているため、引き続き実践力を高めながら指導に当たるよう努めたい。							
2	学校は、教科学習の充実を図るために学び方の多様化に対応し、ICT機器や情報機器を効果的に活用している。	小学部	8	12	0	0	100%
		中学部	7	3	0	0	100%
		高等部	9	7	0	0	100%
		事務	3	1	0	0	100%
【結果から】 ・研修等の積み重ねにより学校全体としてICT機器の効果的な利用が浸透してきている。さらなる研鑽を重ね、ICT機器の活用スキルの向上を目指し、様々な場面で個別最適な学びの実現に向けて活用していく。							
3	学校は、各教科の指導において、各教科段階表の活用や思考・判断する力を育む授業の実践に取り組むことができている。	小学部	10	10	0	0	100%
		中学部	5	5	0	0	100%
		高等部	6	10	0	0	100%
		事務	3	1	0	0	100%
【結果から】 ・各教科段階表を活用した指導計画や指導実践にも慣れてきており、教科指導が適切に進められ、児童生徒の思考力・判断力の育成が進められていることが結果として表れている。一方、改善点も見え始めてきている時期でもあるため、今後の検討改善が期待される。							
4	学校は、指導計画や評価について保護者、東洋学園と連携を図りながら学習活動を進めることができている。	小学部	12	8	0	0	100%
		中学部	6	4	0	0	100%
		高等部	11	5	0	0	100%
		事務	4	0	0	0	100%
【結果から】 ・保護者や学園、外部機関との連携が良好であり、信頼性の高さを示している。							
II	『豊かな心』 「人」を大切にできる心、多様性と地域を大切にできる心の育成						
1	学校は、児童生徒の発達段階に応じ、自己を大切にできる生き方と相手を思いやる態度の育成に努めている。	小学部	7	13	0	0	100%
		中学部	6	4	0	0	100%
		高等部	8	8	0	0	100%
		事務	4	0	0	0	100%
【結果から】 ・学校運営・経営ビジョンの「体の命と心の命を大切にできる」取り組みについての実践が継続的になされていると考えられる。							
2	学校は、児童生徒相互のふれあいを通じた望ましい人間関係の育成をねらいとして、集団を意識した多様な活動場を設定し、学習活動を行っている。	小学部	12	8	0	0	100%
		中学部	7	3	0	0	100%
		高等部	11	5	0	0	100%
		事務	4	0	0	0	100%
【結果から】 ・活動場面の工夫が評価され、児童生徒間の交流が適切に行われていると考えられる。しかし、今後、学部によっては集団が小さくなっていく傾向が続くと予想されるため「集団を意識した活動」について更なる検討と工夫が必要である。							
3	学校は、他校との交流及び共同学習や「地域」を題材とした学習を通して、児童生徒の「地域で生きる力」の育成に努めている。	小学部	5	13	2	0	90%
		中学部	6	4	0	0	100%
		高等部	4	12	0	0	100%
		事務	3	1	0	0	100%
【結果から】 ・地域学習を通じた力の育成が効果を上げているが、不十分という意見もある。今後の活動内容の具体的見直しやその拡充が期待される。							
III	『つなぐ』『支える』 児童生徒の進路実現・地域のニーズへの対応の充実						
1	学校は、児童生徒や保護者の願いを基に、一人一人の将来を見据えた具体的な進路指導や就労支援に取り組んでいると思う。	小学部	9	11	0	0	100%
		中学部	7	3	0	0	100%
		高等部	13	3	0	0	100%
		事務	4	0	0	0	100%
2	学校は、就学前児童や在校生の保護者のより良い子育てや適切な支援に繋げるために、教育相談の設定や保健・福祉との連携を図っていると思う。	小学部	10	10	0	0	100%
		中学部	7	3	0	0	100%
		高等部	13	3	0	0	100%
		事務	4	0	0	0	100%
3	学校は、双葉・いわき両地域の学校等のニーズに応じ、教職員に対する相談支援・研修支援を適切に実施していると思う。	小学部	11	9	0	0	100%
		中学部	7	3	0	0	100%
		高等部	14	2	0	0	100%
		事務	4	0	0	0	100%
【結果から】 ・各種相談、進路、就労支援、出かける支援、研修支援、支援会議の開催など、取り組んできたことを丁寧に発信・周知してきたことで活動内容や状況が幅広く知られるようになり、教職員だけでなく、保護者や外部の方々にも高い評価を得られている。							

令和6年度 学校についてのアンケート集計（評議員）

評価項目		評価				
I	『多様な学び』 一人一人の応じた学び方、生きて働く力の基礎となる確かな学びの実践	思う	だいたい そう思う	あまり 思わない	思わない	「思う」・「だいたい そう思う」の割合
2	学校は、教科学習の充実を図るために学び方の多様化に対応し、ICT機器や情報機器を効果的に活用している。	3	1	0	0	100%
3	学校は、各教科の指導において、各教科段階表の活用や思考・判断する力を育む授業の実践に取り組むことができている。	3	1	0	0	100%
4	学校は、指導計画や評価について保護者、東洋学園と連携を図りながら学習活動を進めることができている。	2	2	0	0	100%
II	『豊かな心』 「人」を大切にする心、多様性と地域を大切にする心の					
1	学校は、児童生徒の発達段階に応じ、自己を大切にする生き方と相手を思いやる態度の育成に努めている。	4	0	0	0	100%
2	学校は、児童生徒相互のふれあいを通じた望ましい人間関係の育成をねらいとして、集団を意識した多様な活動場面を設定し、学習活動を行っている。	4	0	0	0	100%
3	学校は、他校との交流及び共同学習や「地域」を題材とした学習を通して、児童生徒の「地域で生きる力」の育成に努めている。	3	1	0	0	100%
III	『つなぐ』『支える』 児童生徒の進路実現・地域のニーズへの対					
1	学校は、児童生徒や保護者の願いを基に、一人一人の将来を見据えた具体的な進路指導や就労支援に取り組んでいると思う。	3	1	0	0	100%
2	学校は、就学前児童や在校生の保護者のより良い子育てや適切な支援に繋げるために、教育相談の設定や保健・福祉との連携を図っていると思う。	2	2	0	0	100%
3	学校は、双葉・いわき両地域の学校等のニーズに応じ、教職員に対する相談支援・研修支援を適切に実施していると思う。	2	2	0	0	100%
【結果より】 引き続き肯定的な評価を多くいただいた。その中でも「ICT機器の活用」「双葉・いわき両地域の相談支援」について、昨年度を上回る評価をいただいた。						

令和6年度 学校についてのアンケート集計（児童・生徒）

「わからない」は集計結果に含まれません。

		質 問		はい	いいえ	「はい」割合
多様な学び	1	学校生活は楽しいですか。	小学部	10	0	100%
			中学部	6	0	100%
			高等部	11	0	100%
	2	授業や活動の内容はわかりやすいですか。	小学部	5	0	100%
			中学部	5	0	100%
			高等部	9	0	100%
	3	授業の中でタブレットやパソコンを使うことはありますか。	小学部	7	0	100%
			中学部	6	0	100%
			高等部	9	0	100%
豊かな心	4	友達と一緒に勉強や運動をすることは楽しいですか。	小学部	8	0	100%
			中学部	5	0	100%
			高等部	9	0	100%
	5	道徳の授業の内容はわかりやすいですか。	小学部	4	0	100%
			中学部	6	0	100%
			高等部	8	0	100%
	6	係活動や委員会活動では、自分の役割に責任をもって取り組んでいますか。	小学部	8	0	100%
			中学部	6	0	100%
			高等部	9	0	100%
	7	おおすげ共同タイムでは他の学部の友達と楽しく活動できましたか。	小学部	6	0	100%
			中学部	6	0	100%
			高等部	9	0	100%
8	交流や共同学習では、地域や他の学校の人たちと楽しく活動できましたか。	小学部	4	0	100%	
		中学部	6	0	100%	
		高等部	8	0	100%	
つなぐ	9	校内実習や校外実習は、目標をもって取り組むことができましたか。	小学部			0%
			中学部	6	0	100%
			高等部	7	1	88%
その他	10	困ったときに話したり相談できる人はいますか。 (友達、家族、先生、学園の担当など)	小学部	6	0	100%
			中学部	6	0	100%
			高等部	9	0	100%
	11	何か困っていることや、悩み、不安に感じていることはありますか。 (学校のこと、家や学園でのこと、友達関係など)	小学部	1	5	17%
			中学部	2	4	33%
			高等部	1	7	13%
※ 「はい」と答えた意見等						
・勉強でわからないところ(小)						
・家族に会いたくなるときがある。(中)						